

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	宮崎県日南市榎原神社所蔵典籍目録稿
Author(s)	妹尾, 好信; 長友, 禎治; 北原, 沙友里
Citation	内海文化研究紀要 , 51 : 23 - 31
Issue Date	2023-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/53878
URL	https://doi.org/10.15027/53878
Right	Copyright (c) 2023 by Author
Relation	



宮崎県日南市榎原神社所蔵典籍目録稿

妹尾 好信・長友 禎治・北原沙友里

宮崎県日南市南郷町にある榎原神社は、万治元年（1658）に飢肥藩三代藩主伊東祐久によって鶴戸神宮を分祀して創建され、歴代藩主の崇敬を受けるとともに、縁結び、安産の神、また漁業や航海の守護神として、広く地域住民の信仰を集めてきた。現在の本殿は宝永4年（1704）の建立とされ、権現造りと八幡造りの特徴を併せ持った八ツ棟造りと呼ばれる独特の構造をしている。また、天保13年（1842）に建造された鐘楼は、別当寺であった地福寺に属したもので、神仏習合を象徴する個性的な建物である。榎原神社は地福寺の境内に建てられており、同寺はかなりの規模を有する寺院であったようだが、明治5年（1872）に廃仏毀釈のため廃寺となり、今ではわずかに鐘楼と文化13年（1816）に建立された楼門（仁王門）を残すのみである。榎原神社の本殿と、鐘楼、楼門は宮崎県の文化財に指定されており、日南市の観光名所のひとつにもなっている。

榎原神社には宝物資料館があって、伝来の文物が納められ、その一部は展示もされている。近年、新しい社務所が竣工したのを機に、宝物資料館収蔵物の悉皆調査が行われることになり、日南市教育委員会生涯学習課文化財係の文化財専門担当官である長友禎治が予備調査を行った。それを受けて、写本や和歌色紙など、文学資料や古典籍の書誌調査を広島大学文学研究科（当時）の妹尾好信に依頼されたので、妹尾は、当時大学院生であった北原沙友里を補助者として同行し、2019年9月（予備調査）、2020年3月、同年9月の3回にわたって同神社を訪れて社務所内で書誌調査を行った。調査は長友が作成した基礎データに書誌情報を書き加える形で行った。

宝物資料館に保管される典籍で特筆すべきは、榎原神社の創建を伊東祐久に進言したと伝えられる内田万寿女の神通を記したとされる書物群である。伝承によれば、万寿女は元和6年（1620）に高鍋藩領の福島（現申間市）に生まれ、9歳の頃に父内田外記が飢肥藩領の榎原に移り住んだという。21歳の寛永17年（1640）、鶴戸神宮参詣の帰途に突然神がかりし、以後シャーマンとなって数々の神託を伝え、「神女」「法女」と称された。寛文10年（1670）に51歳で亡くなった後、延宝2年（1674）に榎原神社の摂社桜井神社に桜井大権現として祀られたという。

万寿女について記された書物が『神通記』で、榎原神社には正徳4年（1714）の奥書を持つ本と「榎原山慈尊院住法印権大僧都恭誉調之畢」と記す本の2点が所蔵されている。そして、その注釈書である『神通記註解卷』（上・下2巻）も2点存在する。うち1点には明和6年（1769）に「鶴戸山隠土隆岳」が書写した旨の奥書がある。加えて、『追考御神女記略註』なる書もある。これらはいまだ翻刻もなされていないようだが、万寿女の伝承を研究する上で基本資料となる貴重な書物である。その他、万寿女の伝えた託宣・神託を記した書物や文書が多数所蔵されている。また、万寿女が使用したとされる巫具の類も宝物資料館に伝存し、展示もされている。天冠、檜扇、数珠などである。それらを含め、収蔵されているさまざまな器物や絵画、古写真などについては、長友により一通りの調査が終わっている。

調査完了後、収蔵品の全貌を目録化して公開する予定であったが、調査中に新型コロナウイルスに

よる感染症が蔓延する事態となり、妹尾と北原は現地に赴いて継続的に調査することが困難になった。現地での書誌データ確認作業ができないため、とりあえず今回は既調査の典籍類のみを対象とした仮目録を掲載して中間報告とすることにした。完全な目録ができるまでの間、暫定的に利用していただければ幸いである。

なお、典籍類のうち、「十牀和歌 手鑑」と題する木箱に入れられて保存されている和歌色紙19枚については、末尾に画像と和歌の翻刻を掲げた。

調査にあたっては、榎原神社の上村広樹宮司に多大な便宜を図っていただいた。記して厚く御礼申し上げる次第である。(妹尾記、長友補正)

〔凡 例〕

1. 本目録には、榎原神社の収蔵資料のうち、典籍に属すると認められる書物、文書、断簡、和歌色紙の類47点を収録した。
2. 配列は、社殿、社領、伝承、神事、御託、断簡、和歌色紙の順としたが、見出しは設けず、大まかな区切りを1行空けることによって示した。
3. 目録掲載にあたって、以下の方針で書誌的事項を記した。
 - ①**通し番号** 本目録に掲載した書目に対して、配列順に001～047までの番号を付した。
 - ②**書名** 書名は外題によることを原則とした。外題がないものについては、内題のある場合はそれにより、内題もない場合は仮に書名を付した。卷子本や冊子の断簡にはほぼ外題がないので、「神託」「断簡」などと仮書名を掲げ、一部には冒頭の字句を（ ）に入れて付記した。書名はゴシック活字で示した。表記は当該書の表記を尊重したが、現行の字体に改めた場合もある。
 - ③**角書** 書名に角書がある場合は、書名の前に〔 〕に入れてやや小字で示した。
 - ④**寸法** 冊子本の場合は表紙の寸法を縦×横で、卷子本の場合は天地×長さで示した。一枚物の場合も縦×横で寸法を記した。ただし、卷子本で虫損や痛みが激しく展開が困難な場合等には長さは計測せず「未測」と記した。
 - ⑤**形態** 書物としての形態を「冊子」「卷子」の別で示した。
 - ⑥**数量** 冊子の場合は冊数を、卷子の場合は巻数を示した。一枚物の場合は枚数を示した。
 - ⑦**刊写の別** 冊子本の場合は刊本・写本の別を示したが、掲載した冊子はすべて写本である。卷子本は刊写の別を記さないが、無論すべて写本である。
 - ⑧**装丁** 冊子本については装丁を示した。袋綴じの場合は「袋綴」、厚手の表紙を付けない仮綴じの本の場合は「仮綴」と記した。
 - ⑨**解説** 以下、適宜書誌的情報を記した。奥書や識語などがあれば適宜引用した。その際、年号で書かれた年次については西暦を注記した。引用文中の改行は「/」で示した。
 - ⑩**整理番号** 項目末尾に、長友が仮調査の際に付した仮の整理番号を〔 〕に入れて「No.」を付けて記した。当面はこの番号が資料検索と出納の基準となる。

- 001 **郷社榎原神社棟札写** 27.8cm×20.0cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴（綴糸切れ）。宝永4年（1707）、安永3年（1774）、寛政9年（1797）、寛政10年（1798）、文化4年（1807）、文化13年（1816）、嘉永4年（1851）の棟札写。表紙中央よりやや左寄りに外題直書。内題なし。〔No.001〕
- 002 **榎原神領、田畠配当帳** 29.8cm×21.0cm。1冊。写本・袋綴・仮綴。帳簿。「榎原神領 田畠配当帳入 神生寺宝物櫃納」とある木箱入り。〔No.042の1・2〕
- 003 **榎原神領、田畠配当帳** 29.7cm×21.5cm。1冊。写本・袋綴・仮綴。帳簿。「榎原神領 田畠配当帳入 神生寺宝物櫃納」とある木箱入り。付箋多数。〔No.042の1・3〕
- 004 **小枚配当割方帳 安永十辛丑正月改** 13.2cm×36.0cm。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。帳簿。「榎原神領 田畠配当帳入 神生寺宝物櫃納」とある木箱入り。安永10年は1781。〔No.042の1・5〕
- 005 **神通記** 30.8cm×21.7cm。冊子。1冊。写本・袋綴。五目綴。奥書に「正徳四《甲午》十月日主／ぬい」とあり（正徳4年は1714）。虫損激し。一面9行、漢字平仮名混じり。漢字には多く平仮名で振り仮名あり。表紙左側に外題直書。表紙右上隅に「乙」と墨書。〔No.002〕
- 006 **神通記** 29.3cm×22.1cm。冊子。1冊。写本・袋綴。表紙左上に題簽外題あり。内題なし。表紙右上隅に「丙／十二ノ内」と墨書。一面9行、漢字・平仮名混じり、振り仮名なし。表紙全面金泥塗り。奥書に「榎原山慈尊院住／法印権大僧都恭誉／調之畢」（後表紙裏）と墨書。〔No.005〕
- 007 **神通記註解卷** 28.3cm×21.6cm。冊子。上・下2冊。写本・袋綴・仮綴。巻首に「神通記註解序」（年次不記・無署名）あり。一面8行、漢字・片仮名混じり。漢字には多く片仮名で振り仮名あり。表紙左側に外題直書。上巻表紙右上隅に「丙／十二ノ内」と墨書。虫損激し。〔No.003～004〕
- 008 **神通記註解卷** 28.0cm×19.9cm。冊子。上・下2冊。写本・袋綴。下巻は外題欠。下巻巻首題・巻尾題「神通記註解卷下」。上巻表紙右上隅に「丁」と墨書。本文は一面8行、漢字・片仮名混じり。上巻巻首に一面11行、下巻巻首に一面13行の前書のような文章各1丁あり。上・下巻後見返に「榎原山什物」と墨書。下巻表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。朱点・朱引・朱筆書入あり。下巻表紙・巻首に破れあり。「明和六己丑年八月令辰。鶴戸山隠士隆岳謹書（印）」とあり（明和6年は1769）。〔No.015, 006〕
- 009 **〔追考〕御神女記略註** 28.3cm×19.5cm。冊子。1冊。写本・袋綴。表紙右上隅に「己」と墨書。朱点・朱引・朱筆書入あり。巻尾に「榎原山什物」と墨書。奥書に「明和八辛卯年八月穀旦、鶴戸山沙門隆岳謹誌」とあり（明和8年は1771）。〔No.017〕
- 010 **神女羽團大事** 17.8cm×47.8cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「御神女羽團之大事」（巻首題）。奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。付箋1枚別添。〔No.055〕
- 011 **御神女羽團大事** 17.6cm×46.1cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「〈直伝〉羽團之大事」（巻首題）。本奥書に「寛文八戊申歳十二月廿一日傳之實應／御神託ヲ以テ傳之畢／已上實應直傳ノ奥書如是也」（寛文8年は1668）、奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。〔No.056〕

- 012 **御神女羽団大事口決** 17.7cm×48.0cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「羽団之大事口決」（巻首題）。本奥書に「明和九壬辰霜月吉旦」（明和9年は1772）とあり、奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。[No.080]
- 013 **羽団大事口傳書** 17.4cm×37.7cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「羽団之大事口傳書」（巻首題）。奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。[No.057]
- 014 **羽團寸方並口決書** 17.5cm×48.0cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「[直伝]羽團之寸方 極秘」（巻首題）。寛文8年（1668）12月21日實應の伝に基づく口訣。奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。[No.068]
- 015 **羽団加持供物書** 17.5cm×48.0cm。冊子。1冊。写本・袋綴（下に折目）・仮綴。「羽団加持供物」（巻首題）。奥書に「祐光寺前住／大先達玉鳳院法印祐清（印）／文化十二乙亥年／四月吉祥日」（文化12年は1815）とあり。[No.075]
- 016 **御託** 25.9cm×18.2cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.007]
- 017 **御託（「榎原に神の御出現の根本…」）** 寸法未測。卷子。1軸。写本。表紙あり。[No.085]
- 018 **御託（「榎原に神の出現の根本…」）** 天地24.6cm。長さ未測。卷子。1巻。写本。延宝九年辛酉正月廿四日付に実栄から保田勝左衛門にあてた文書（延宝9年は1681）。巻首裏に「おのへねんごろせず」と墨書。木箱に「立願文箱、家老中、諸士中」、包紙に「別に写有」と墨書。[No.019の1・2]
- 019 **御託（「丙極月三日丑ノ刻御神氣」）** 30.6cm×394.5cm。卷子。1巻。無軸・無表紙。内題「丙極月三日丑ノ刻 御神氣」。巻首裏に「三軸之内 出家」とあり。[No.050]
- 020 **御託（「寛文第八戊申歳十月廿一日曉戌之下刻…」）** 天地24.2cm。長さ未測。卷子。1巻。無軸。紙接ぎがほぼ剥がれた状態。冒頭「寛文第八戊申歳十月廿一日曉戌之下刻」。（寛文8年は1668）[No.022の1]
- 021 **御託（「御立腹の恨共…」）** 32.6cm×約117.0cm。卷子。1軸。無表紙。某年11月22日付伊東大和守から御神前への書状（詫び状か）を12月26日付で平部長右衛門ら3名が書写し別当御坊に差し出したもの。[No.049]
- 022 **御託（「御立腹の儀共…」）** 34.2cm×89.5cm。卷子。1巻。無軸・無表紙。全面裏打。末尾に「十一月廿二日 伊東大和守／祐久（花押）／御神前」とあり。[No.049]の原本。[No.052]
- 023 **御託（「此度御腹立之儀…」）** 34.3cm×137.5cm（除表紙）。卷子。1巻。無軸。表紙あり。某年10月24日付伊東祐久の文書と年次不明伊東大和守（祐久）の文書を繋いで1巻としたもの。虫損激し。[No.054]
- 024 **御託（「奉願念度辰ノ年九月九日…」）** 30.8cm×128.0cm。卷子。1巻。無軸・無表紙。巻首裏に「三軸之内 出家」とあり。巻尾に「戊正月二日／御宝前」とあり、小書で「三巻之内／寛保元年

- 辛酉十一月写之置 出家」(寛保元年は1741)とある。冒頭は「奉願念度辰の年九月九日よりの御出現当年迄廿年に余り…。[No.051]
- 025 御託 (「奉願念度辰年九月九日…」) 30.3cm×127.0cm (除表紙)。卷子。1軸。表紙あり。巻尾に「戊正月二日／御宝前」とあり。[No.051]の原本。[No.053]
- 026 御託書 三冊 32.4cm×23.5cm。冊子。合1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。虫損激しく展開困難。[No.014]
- 027 御託書 天地24.2cm。長さ未測。卷子。1巻。無軸。巻首裏に「実応(江)御伝授ノ巻」とあり。「立願文箱、家老中、諸士中」の木箱・包紙「御神女様由来書、弥六流、地福寺改」。[No.018の1・2]
- 028 御託書 天地28.8cm。長さ未測。卷子。1巻。無軸。紙接ぎの剥がれた状態で3枚分存。木箱に「立願文箱、家老中、諸士中」、包紙に「御託書別に写有」と墨書。[No.020の1・2]
- 029 御託書写 27.6cm×20.7cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.009]
- 030 御託書写 27.7cm×20.6cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.010]
- 031 御託書和歌 25.2cm×18.2cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。「右巻冊、古伝以古本書写畢。明和六月巳丑菊月(9月)十六日、慈尊院住法印隆範」とあり(明和6年は1769)。[No.013]
- 032 御託趣口上書覚 27.8cm×20.7cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.011]
- 033 御託趣口上書覚 26.0cm×18.5cm。冊子。1冊。写本・袋綴。表紙右上隅に「戊」と墨書。後見返に「榎原山什物」と墨書。「明和七寅年五月穀旦、於大慈閣天岳院書焉、鵜戸山隠士隆岳(印)」と墨書(明和7年は1770)、「別に清書の本有、尋て之を見よ矣」と朱書あり。[No.016]
- 034 御出現本起、御託書纂要 27.9cm×20.7cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.012]
- 035 覚書写 27.7cm×21.6cm。冊子。1冊。写本・袋綴・仮綴。表紙右上隅に「丙十二ノ内」と墨書。[No.008]
- 036 覚書之写 天地24.2cm。長さ未測。卷子。1巻。無軸。紙接ぎがほぼ剥がれた状態。冒頭「一戊申十月廿日より～」とあり。[No.021]
- 037 軍陣出立大事 30.0cm×174.0cm。卷子。1巻。無軸・無表紙。巻首裏に「軍陣出立大事(極秘)」と外題あり。巻首に「直伝／軍陣出立之時／護身法 次九字」とあり。巻尾に「寛文八(戊申)歳十二月廿六日(伝之)實應」(寛文8年は1668)とあり。巻尾に「寛文八(戊申)歳十二月廿六日(伝傳)實應」とあり。包紙は[No.023-2]。[No.048]
- 038 鳴弦法 15.9cm×17.4cm。枅形本列帖装の断片(表紙と第1丁のみ存)。「神道十種鳴弦 秘法」(巻首題)。[No.058]の連れか。[No.060]

- 039 **弘化三丙午九月四日** 15.5cm×77.5cm。長短2紙に和歌7首を記す。巻頭に「馬ニノリ・馬ニノラント・セシ人ヲ・ウチ・シタガエル・ワガ・團カナ」の歌を載せ、「次秘歌」として6首を記す。弘化3年は1846。〔No.061〕
- 040 **靈地之記** 28.2cm×39.7cm。安永5年（1776）隆岳作。末尾に「南無地藏大菩薩御宝前／安永五丙申年九月吉祥日／隆岳敬白」とあり。和歌2首「日の國のたゑにかさなる岩尾にて／からたの山と關にしらるゝ」「立寄て汲ともつきし谷川の／流れすゝしき清水なるらん」とあり。〔No.047〕
- 041 **断簡** 16.8cm×16.8cm。枡形本写本の断簡1葉。「甲申霜月十四日御神託也／御出現根元別紙ニ有」の記述あり。〔No.070〕と連れ。〔No.066〕
- 042 **断簡** 16.2cm×17.5cm。枡形本列帖装の写本の断簡2葉。書名不明。「寛政五癸丑極月上旬」（寛政5年は1793）、「正本／下北 正學院」との記述あり。〔No.060〕、〔No.071〕と連れか。〔No.058〕
- 043 **断簡** 16.8cm×16.8cm。枡形本写本の断簡1葉。「御桑祭之大事 上」から始まる。〔No.066〕、〔No.072〕、〔No.074〕、〔No.078〕と連れ。〔No.070〕
- 044 **断簡** 16.7cm×16.7cm。枡形本写本の断簡半葉。「卯辰 巳午未申 酉日／武運長久 国家安穩 障碍退散」の2行。〔No.070〕と連れ。〔No.072〕
- 045 **断簡** 16.8cm×16.8cm。枡形本写本の断簡半葉（表紙）。外題に「〈御神傳〉御桑祭之大事」、右下に「榎原山 教円之」とあり。〔No.070〕と連れ。〔No.074〕
- 046 **断簡** 16.8cm×16.8cm。枡形本写本の断簡半葉。「祈願」の条の一部。〔No.070〕と連れ。〔No.078〕
- 047 **十躰和歌 手鑑 他** 和歌色紙19枚と筆者目録1枚。木箱入り。「十躰和歌筆者」（目録）53.2cm×19.6cm。「幽玄躰」17.5cm×16.2cm。「長高躰」19.9cm×17.3cm。「有心體」19.8cm×17.3cm。「麗躰」19.8cm×17.3cm。「事可然躰」19.8cm×17.3cm。「面白躰」17.8cm×17.3cm。「濃躰」19.8cm×17.3cm。「見様躰」17.8cm×17.3cm。「有一節躰」19.9cm×17.3cm。「鬼拉躰」17.2cm×16.3cm。「僧正遍昭」22.1cm×20.2cm。「在原業平朝臣」22.1cm×20.2cm。「文屋康秀」22.1cm×20.2cm。「喜撰法師」22.1cm×20.2cm。「小野小町」22.0cm×20.2cm。「大伴黒主」22.1cm×20.2cm。「西行法師」20.8cm×17.9cm。「としことに…」（「新上西門院〈としことに〉」の極札付）17.0cm×15.4cm。「仙人の…」18.2cm×17.1cm。28.4cm×26.6cmの木箱入り。箱書に「十躰和歌／手鑑 隆寂代」とあり。〔No.084〕
- ※次ページ以下の翻刻と画像参照。翻刻には、典拠と考えられる勅撰和歌集等の歌番号を併記した。

〔巻頭の解説に関する主な参考資料〕

- ・『宮崎県史 通史編 近世上』（宮崎県 平成12年）
- ・『宮崎県史 史料編 近世4』（宮崎県 平成7年）
- ・『日向纂記』平部嶠南（歴史図書社 昭和51年）

〔和歌色紙の翻刻と画像〕

〈十躰和歌色紙〉

(目録)「十躰和歌筆者／幽玄躰 廣幡大納言豊忠卿／長高躰 高倉前大納言永福卿／有心躰 冷泉中納言為經卿／麗體 押小路三位實峯卿／事可然躰 石山三位師香卿／面白躰 園頭中将基香朝臣／濃躰 山井三位兼仍卿／見様躰 甘露寺宰相尚長卿／有一節躰 六條中納言有藤卿／鬼拉躰 中山前大納言篤親卿／以上」

- (1)「幽玄躰 侘ぬれは今はたをなし難波なる身をつくしてもあはむとそおもふ」(後撰960・拾遺766)
- (2)「長高躰 思ふ事などゝふ人のなかるらむあふけは空に月そさやけき」(新古今1782)
- (3)「有心體 津のくにの難波のはるはゆめなれや芦のかれはに風渡るなり」(新古今625)
- (4)「麗躰 ほのゝとあかしのうらのあさ霧に寫かくれ行舟をしそ思ふ」(古今409)
- (5)「事可然躰 大かたの秋はね覚のなかきよもきみをそいのる身をおもふとて」(新古今1760)
- (6)「面白躰 山さとにうき世いとはむともゝかなくやしく過し昔かたらむ」(新古今1659)
- (7)「濃躰 ちらすなよしのゝはくさのかりにてもつゆかゝるへきふての上かは」(新古今1111)
- (8)「見様躰 むらさめのつゆもまたひぬ槇の葉に霧たちのほるあきのゆふくれ」(新古今491)
- (9)「有一節躰 立かへり又も来てみむ松島やをしまの苫屋波にあらすな」(新古今933)
- (10)「鬼拉躰 ぬれてほす玉くしのはの露霜に天てるひかりいく世へぬらむ」(新古今737)

〈六歌仙和歌色紙〉

- (11)「僧正遍昭 あさみとりいとよりかけてしらつゆをたまにもぬける春の柳か」(古今27)
- (12)「在原業平朝臣 月やあらぬはるやむかしの春ならぬわか身ひとつはもとのみにして」(古今747)
- (13)「文屋康秀 ふくからに野へのくさ木のしほるれはむへやま風をあらしといふらん」(古今249)
- (14)「喜撰法師 わか庵はみやこのたつみしかそすむよをうち山と人はいふなり」(古今983)
- (15)「小野小町 色みえてうつろふものはよの中のひとのこゝろのはなにそ有ける」(古今797)
- (16)「大伴黒主 思ひいてゝこひしきときは初かりのなきてわたると人はしらすや」(古今735)

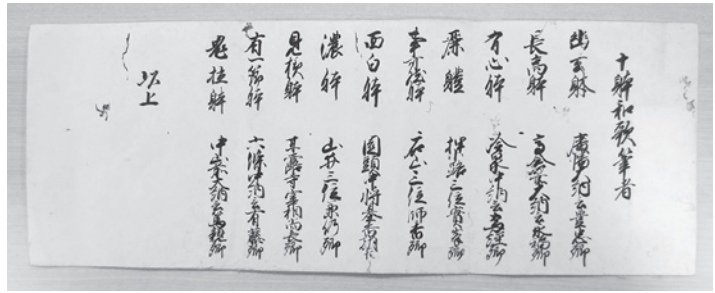
〈その他〉

- (17)「西行法師 山さとの月まつあきのよふくれはかと田の風の音のみそする」(御裳濯河歌合38)
- (18)「としことに生そふ竹のよゝをへてかはらぬ色をたれかみるへき」(新古今715)
- (19)「仙人の折袖にほふ菊の露うちはらふにも千世はへぬへし」(新古今719)

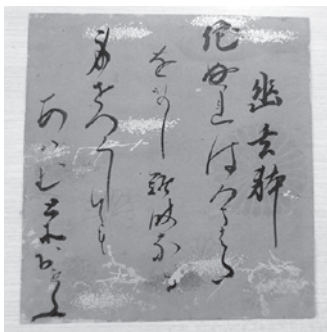
(翻刻と典拠調査、北原)



箱書



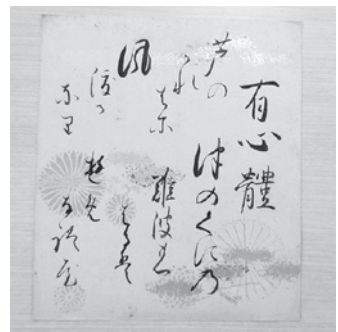
十躰和歌 筆者目録



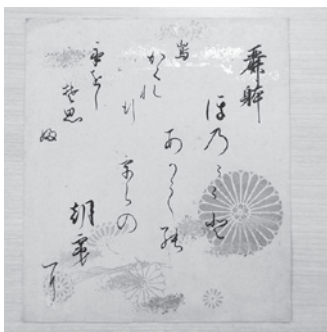
(1)幽玄躰



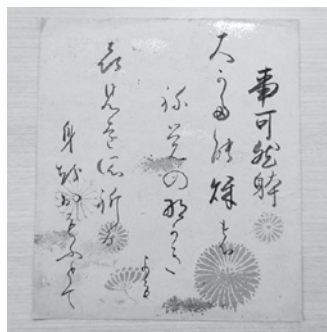
(2)長高躰



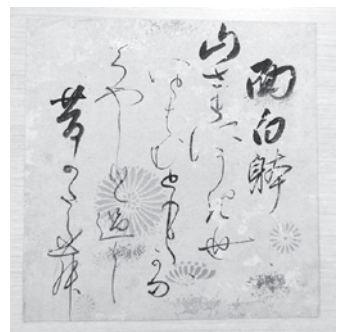
(3)有心躰



(4)麗躰



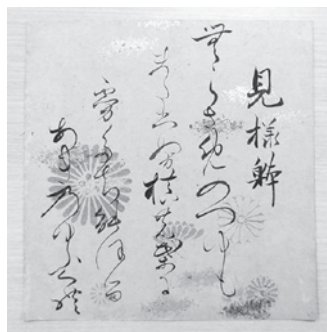
(5)一事可然躰



(6)面白躰



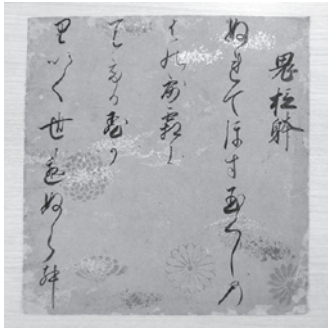
(7)濃躰



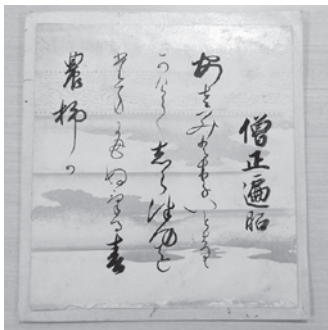
(8)見様躰



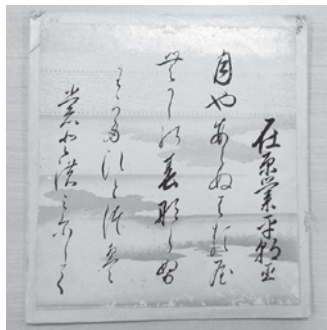
(9)有一節躰



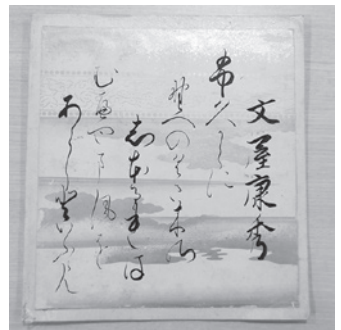
(10)鬼拉軒



(11)僧正遍昭



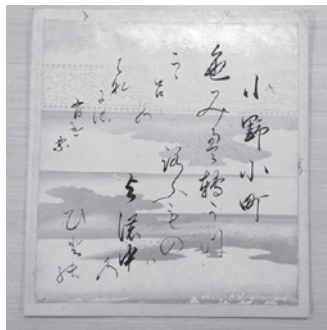
(12)在原業平朝臣



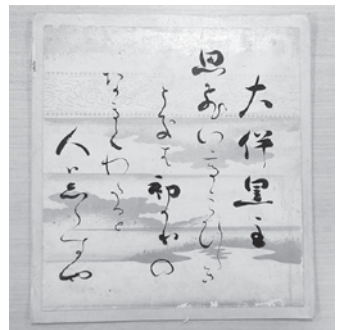
(13)文屋康秀



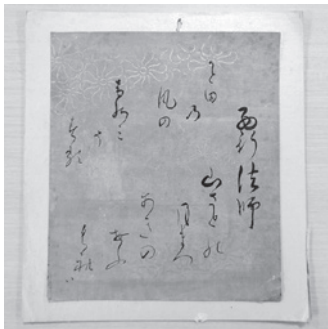
(14)喜撰法師



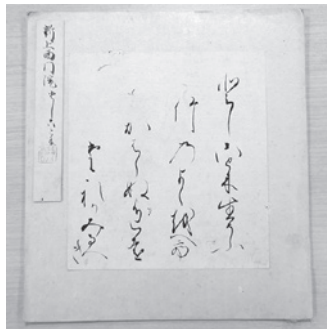
(15)小野小町



(16)大伴黒主



(17)西行法師



(18)としことに…



(19)仙人の…

